

<地域交流部門>

大学教育ツーリズム in 大館 2019

代表者 上坂 芽穂 (情報・4年) 他 学生 19名

1. 活動概要

「自分なりの教育への魅力を発見する」のコンセプトの下、様々な教育への在り方に触れることで、自らの教育観を磨くことを目指した。秋田県大館市の視察を中心に事前研修・事後報告会を企画した。教員だけでなく教育に関わる職業・キャリア形成について知る機会を設定することで学校教育を捉える視野を広げることを試みた。11月は本学、12月は名古屋大学にて報告会を行い、本学学生、現職の教員や他大学学生との交流を図りながら、現在、未来の教育及び教員の在り方、社会全体として教育への関わり方について考えを深めた。

2. 実施状況

○事前学習

(1) 令和の教師見本市(2019年7月29日)

現役教師の講演「令和の教育ってなんだろう？」をテーマに信田雄一郎先生、坂田聖一郎先生、深見太一先生、稲垣享一郎先生の4名の現役教師をお招きして講演会を行った。現在の学校現場や新しい令和の教育についてこれからの学校現場の姿など知ることができた。

(2) 瀬戸市キャリア教育勉強会(8月8日)

愛知県瀬戸市でキャリア教育の一環として行われている「キミチャレ」についてキャリアコンサルタントである柴田朋子さんの話を聞いた。「子どものやってみてを全力で応援する」、「基本的に子どもがやる」という共通認識の下、子どもが成長する姿を映像からも確認することができ、子どもの無限の可能性を感じた。

(3) 授業の見方講座(9月5日)

ツーリズムや教育実習を前に、下級生に向けて教育実習を経験した4年生が授業の見方や、学んだことを自分の授業に生かす方法・視点について共有し、大館市を視察した際の自分なりの授業への注目ポイントを作る目的で行った。

(4) ツーリズム視点ワーク(8月中旬)

大館市渡航前に全員が自分なりの目標や目的を明確にできるよう、秋田県大館市の地域連携の教育活動の在り方について調べた。そして、この研修を通してどんな自分・教師になりたいのか、どんなことに取り組みたいのか、大館市の教育のどんな部分に注目したいのかを、それぞれの「視点」として表明し合った。

○教育ツーリズム当日(9月16日～19日)

大館市1日目

(1) 大館市のふるさとキャリア教育についての講話



大館市教育委員会の山本教育監からふるさとキャリア教育と大館型学力の概要を聞いた。大館市はかつて優秀な若者の流出と少子高齢化に悩み、「消滅可能性都市」を宣告された。これを受け、地域創生戦略としての「ふるさとキャリア教育」を掲げ、

「ふるさとの未来を切り拓く人財」の育成を目指している。「百花繚乱作戦」という各学校において地域との連携を目指した独自の取り組みや、「子どもハローワーク」という小学生・中学生が自主的に興味のある職業の職場体験を行う取り組みがある。その中で地域全体を巻き込んでいく大館市の教育の在り方を学んだ。

(2)きりたんぼ鍋作り

大館市教育委員会の方々や先生方、学生同士で交流を深めた。

(3)ライフワークチャート

各参加者の過去、現在、未来のライフイベントについて語り合うことで、ライフキャリアにおける現在の自分の位置を確認した。その上で、大館市における4日間の研修における自分なりの目標・視点を話し合い、明確化した。

大館市 2 日目

(1)PA プログラム

PA (プロジェクトアドベンチャー) プログラムとはアメリカ生まれの教育プログラムで冒険を通して自分の成長に必要な自分の見つめなおしが体験できるものであり、アイスブレイクの役割も果たす。PAプログラムを通して、参加者同士の結束が高まった。

(2)川口小視察

授業・研究授業見学

小学校 5 年生の総合の授業を見学した。題材名は「生きる力パワーアップ」で、様々な選択場面における意思決定と話し合いによる合理的な意思決定の必要性の理解をねらいとする。各選択のメリットデメリットの話し合いや意見のまとめが全て児童主体で行われていた。また、小学校 6 年道徳の研究授業も見学した。題材名は「六年生の責任って？」で、より良い学校を作るために6年生としてできることは何かを考える授業であった。この授業でも、「聞く力」「伝える力」「考える力」を育む、児童主体の構成が徹底されていた。

研究授業検討会

参加者がグループに分かれてワークシ

ョップ形式でより良い授業づくりの為に話し合いを行った。授業検討会の様子を知ることができ、現職の先生方とも授業の意見を交わす貴重な機会であった。



(3)第一中学校視察

第一中学校では自分の学科の科目や興味のある授業を見学した。中学校でも小学校同様、生徒主体の授業が行われており、発言やグループワークにも積極的であった。

(4)懇親会

夜は川口小学校と第一中学校の先生を数人交えて、比内やで懇親会を行った。参加者は、先生方や社会人の方に今抱えている悩みを相談したり、教職についてアドバイスをいただいたりした。



大館市 3 日目

(1)釈迦内小学校「サンフラワープロジェクト」

「すべては未来を担う子どもたちのために」という想いで、学校と地域が一体となり、行われているサンフラワープロジェクトの一部を体験した。これはふるさとキャリア教育の一環として、地元の商工会議所の協力の下、子どもたち自身がひまわり

を育て、種を取り、絞った油から作られた製品の販売や、翌年の活動にむけて地域の方に種を配って回る「一戸一ひまわり運動」が行われている。種から作られるひまわり油の利益は子どもたちに、修学旅行の費用として還元される。

学校と地域の連携について、私たちは地域と連携する際に学校から地域に依頼して学習活動を行うと考えがちである。しかし本来は学校と地域は「連携」ではなく地域の「中」に学校があり、地域と共に発展していくことを目指すのだと捉え直していくことが大切だと学んだ。

(2)下川沿中学校「獅子踊り」



川口地区周辺で古くから引き継がれている獅子踊りをその伝承者として、地域の方と共に中学生が練習に取り組んでいた。踊りをより良くしようと生徒たちが自分自身で考え、意見を交わしていた。

(3)川口小学校「愛知の魅力ワークショップ」

川口小で学んだお礼として、そして大館市の児童と交流して親交を深めるため、ワークショップを企画し、すごろくゲーム形式で愛知県や名古屋の魅力を紹介した。

(4)予祝会

「予祝」とは、自分の将来の理想の姿を現時点の自分たちで祝うことである。未来のある一日を想定して日記を書き、参加した学生・教職員同士で発表会を行った。

(5)フィードバック

4日間で学んだことを個人、グループで模造紙に書きだし、発表をした。自身の学びを振り返る機会となった。

○事後学習

大館市に行く前と行った後の自己の変化を確認するため、愛知教育大学、及び名古屋大学にて報告会を行った。

○愛知教育大学報告会（11月15日）

大館での4日間の活動報告を、当日イベントに参加した学生、教職員等含め50名が小グループに分かれて、ツーリズム参加者のそれぞれの視点で学びを共有した。その後これらを受けて疑問や感想などの意見交流を行い、最後に報告会の参加者が個人の学びの発表をした。



○名古屋大学報告会（12月15日）

愛知教育大学の学生による大館での活動報告・ワークショップ、及びアイセック名古屋大学委員会による活動報告・海外研修プログラムの紹介を行った。愛知教育大学の学生だけでなく、他大学の方や様々な教育に関わる方等含め約30名が、活動報告を受けて意見交流や個人の学びの発表を行った。

3. 成果

企画の段階において、「どのようなツーリズム」にしたいかについて話し合いを重ねた。そして、ワークショップ企画、ライフワークチャート、広報、運営など、チームに分かれて活動を行う中で、それぞれが自分の得意分野を生かしながら主体的に作り上げる姿が見られた。大館のふるさとキャリア教育に触れる中で、自分なりの教育への関わり方の実現に向けて、今の自分にできること、足りない部分を自覚し、大学生時代から何ができるのかについて考える機会となった。報告会では大館におけ

る学びの共有だけでなく、自らで教育に対する討論テーマを立て、参加者と共に教育に対する知識や考えを深めた。またアイセック名古屋大学委員会との交流の中で、海外への進出も含めた今後の自らのキャリアの視野を広げることができた。

4. 今後の展望

一連の活動を通して、メンバーそれぞれが自分なりに見つけた教育への魅力・関わり方をベースに目標を定め、地域への貢献も含めた活動に繋げていきたいと考えている。例えば、釈迦内小学校で頂いたひまわりの種を大学構内に植えることや、今回の活動における組織運営の背景とした考え方、及びアンケートを基にした学生の成長を論文にまとめて、本学教員と共に投稿すること等を考えている。また、研修先についても、大館市だけでなく様々な教育現場に行き、教育について考える機会を増やしていきたい。



5. 決算

予算：356,679円, 残額：43,321円

費目	支出額
○ 消耗品	
マーカー (15色) ×4	7,840円
模造紙	1,419円
小計	9,259円
○ 旅費	
航空費等 (7名分)	347,420円
小計	347,420円
合計	356,679円

注：9月16日～19日における研修費については、一人当たりの負担額は、渡航費

と雑費を合わせて平均約5万円であった。チャレンジプログラム予算における「旅費」による補助は、当日欠席した2名を除いた16名に対して、基本負担額を1万6千円と定め、各自で実際にかかった航空券代金から1万6千円を引いた額について、合計執行予算から捻出した。その為、一人当たりの実質負担額は渡航費(1万6千円)と雑費(1万円)を合計して2万6千円となった。

6. メンバー

番号	学年	名前	所属
1	4	上坂 茅穂	情報
2	1	佐野 みなみ	教育科学
3	2	長谷川万里愛	美術
4	2	細野 渚	教育科学
5	2	浅野 友花	理科
6	2	鈴木 雄登	教育科学
7	2	土川 朋恵	英語
8	3	谷口 弘花	音楽
9	3	田澤 萌々花	音楽
10	3	横田 悠磨	社会
11	3	九里 桜子	教育科学
12	3	蟹江 哲太郎	教育科学
13	3	ウイリアムズ 笑美里	教育科学
14	4	下坂 彩花里	体育
15	4	前田 純樹	教育科学
16	4	加藤 光一郎	社会
17	4	山崎 求紀	体育
18	4	村上 悠斗	社会
19	教員	高綱 睦美	